



# 電子リソース管理システムの 国内利用可能性に関する検討状況

学術情報基盤オープンフォーラム 2017年6月8日

佛教大学図書館専門員

飯野勝則

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会  
電子リソースデータ共有作業部会

1. 電子リソースデータ共有作業部会とは
2. 電子リソース管理と共有作業の必要性
3. コンソーシアムと連携可能な「既存」の電子リソース管理システム
4. 電子情報資源管理システム（ERMS）コンソーシアム版の検証結果【2016年度】
5. 図書館サービスプラットフォーム（LSP）の検証の概要【2017年度】
6. 今後考えるべきこと

# 電子リソースデータ共有作業部会とは

- これからの学術情報システム構築検討委員会が活動目的とする「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」のうち、特に電子情報資源のデータの管理・共有に関する企画・立案を目的として平成27年4月に設置された作業部会です
- 2017年度は電気通信大学、鹿児島大学、神戸大学、北海道大学、佛教大学、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター、国立情報学研究所（JUSTICE事務局）からの委員と、東京工業大学、早稲田大学、国立極地研究所からの協力員によって構成されています

# 電子リソース管理と共有作業の必要性

# 「電子リソース共有作業」の二つの概念

6

(1)



感覚的には「みんなのため」の共有

(2)

感覚的には「自分たちのため」の共有



# (1) 各機関から外へ向けての共有

7

## ERDB-JP

Electronic Resources Database-JAPAN

HOME

概要

コンテンツ

パートナー

ドキュメント

お問い合わせ

日本の電子リソースを世界へ

12,533 Titles, 48 Partners

ERDB-JPは、大学・出版社・ナレッジベースベンダーが協力して構築する、日本で刊行された電子リソースのデータ共有サービスです。

サイト内に登録されたデータはCC0 1.0 Universalの下に提供されています。

データの検索・閲覧・エクスポートおよび新規登録・修正・削除依頼はどなたにでも行っていただけます。

ユーザーログイン

アカウント \*

パスワード \*

✦ [アカウントの作成](#)

✦ [パスワードの再発行](#)

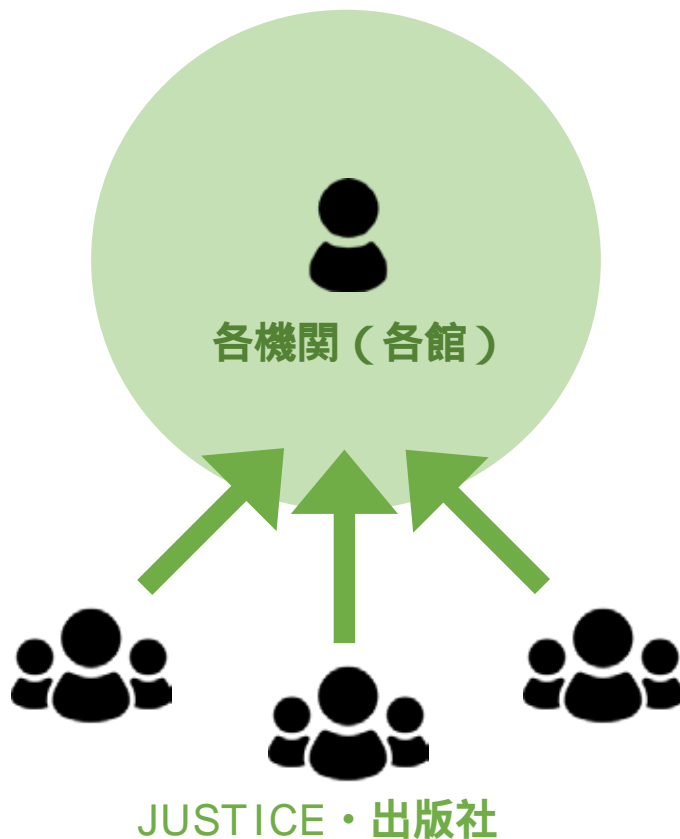
ログイン

機関外（他機関）の利用者の存在を前提に、機関内で作成されたOAを積極的に発信し、他機関と共有することで、学術情報の円滑な流通を図っています

ERDB-JP  
Electronic Resources Database-JAPAN

ということで、ここでは

8



( 2 ) 「外から各機関へ向けての共有」作業を中心に取り上げます



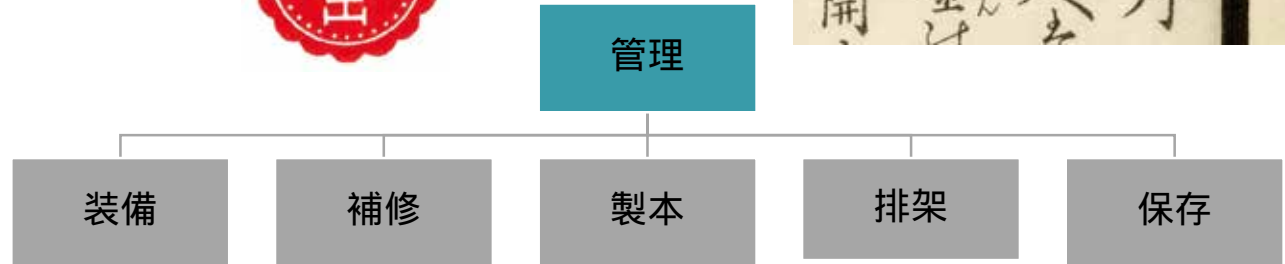
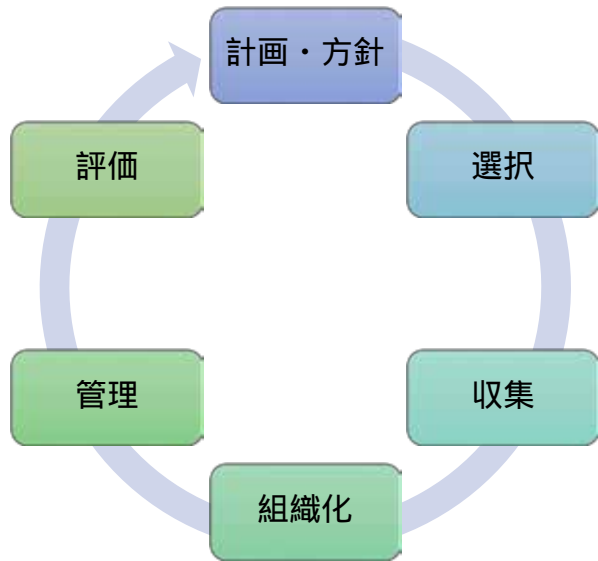
**(2) 外から各機関へ向けての共有とはどのようなものか？  
自館とその利用者のサービス向上に向けて**

## (2) 外から各機関へ向けての共有とは？

10

- 機関内の利用者やステークホルダーを念頭に、適切な形で外部由来の学術情報を提供することを目的とする「共有」
- 図書館が従来になってきた蔵書に対する行き届いた管理を電子の世界で実現させるもの

# 実体のある「紙」の資料をどう管理していますか



図書館としての長年の経験を基に、著作権の扱いから、資産としての紛失防止にいたるまで、さまざまな側面を考慮することで「微に入り細に入り」管理しています

# では電子リソースの場合はどうなのでしょうが

Showing results 1 through 8 of 8

for the search: タイトルが右の語から開始 "library information"

**Note:** Alternate titles may have matched your search terms.

Refine Results: [All](#) | [Journals Only](#) | [Books Only](#)

Limit by: [Peer Reviewed](#) | [Open Access](#)



## Library & information history

ISSN: 1758-3489

Peer Reviewed

2009/03/01 to Present in [Taylor & Francis](#)  
2009/03/01 to 1 year ago in [Academic Search](#)

## Library and information research

eISSN: 1756-1086

Open Access

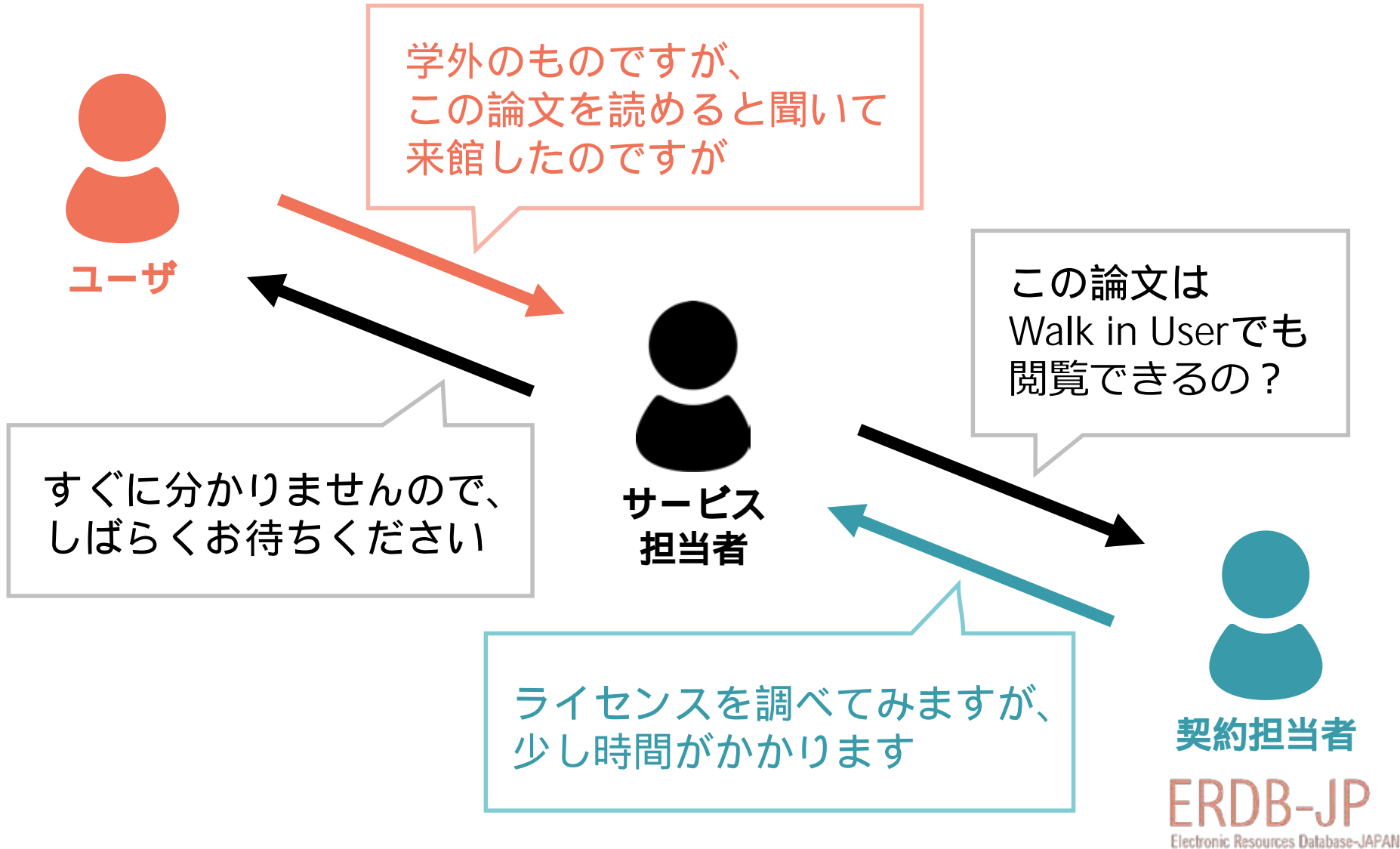
2007 to Present in [Directory of Open Access Journals](#)  
[Freely Accessible Scientific Journals](#)  
2007/01/01 to Present in [Open Access Journals](#)

The screenshot shows a search interface for 'Library journal' with the following details:

- Search Bar:** Library journal
- Results:** 17,052,832 items (順による結果)
- Filtering:** Filter cleared (フィルターをクリアにする)
- Item 1:**
  - Law library journal** (オンライン)
  - Author:** American Association of Law Libraries; National Association of State Libraries; Public Document Clearing House Committee
  - Format:** Law library journal
  - Availability:** 電子ジャーナル: 本文あり(一部例外を含む)
  - Action:** プレビュー
- Item 2:**
  - Texas library journal** (オンライン)
  - Author:** Texas Library Association
  - Format:** Texas library journal, 1950
  - Availability:** 電子ジャーナル: 本文あり(一部例外を含む); 雑誌: 本文あり(一部例外を含む)
  - Action:** プレビュー
- Left Panel (Filters):**
  - 絞り込み: 本文あり(一部例外を含む) ✓
  - 図書館OPACにある文献
  - フォーマット:
    - 新聞記事 (6,501,741)
    - 雑誌論文 (6,443,543)
    - 雑誌記事 (2,012,693)
    - 書評 (1,947,207)
    - 図書 / 電子ブック (22,379)
  - その他...
  - 発行年月日

確かにリンクリゾルバやA to Z、ディスカバリーサービスを使えば、利用者への提供はできているように見えます

# でも落とし穴がないわけではありません



# キャンセル後のアーカイブ権管理も必要です

## [-] Volume 30 (2015)

- [Issue 6 \(November 2015\)](#)
- [Issue 5 \(September 2015\)](#)
- [Issue 4 \(July 2015\)](#)
- [Issue 3 \(May 2015\)](#)
- [Issue 2 \(March 2015\)](#)
- [Issue 1 \(January 2015\)](#)

## [-] Volume 29 (2014)

- [Issue 6 \(November 2014\)](#)
- [Issue 5 \(September 2014\)](#)
- [Issue 4 \(July 2014\)](#)
- [Issue 3 \(May 2014\)](#)
- [Issue 2 \(March 2014\)](#)
- [Issue 1 \(January 2014\)](#)

## [-] Volume 28 (2013)

- [Issue 6 \(November 2013\)](#)
- [Issue 5 \(September 2013\)](#)
- [Issue 4 \(July 2013\)](#)
- [Issue 3 \(May 2013\)](#)
- [Issue 2 \(March 2013\)](#)
- [Issue 1 \(January 2013\)](#)



## [-] Volume 27 (2012)

- [Issue 6 \(November 2012\)](#)
- [Issue 5 \(September 2012\)](#)
- [Issue 4 \(July 2012\)](#)
- [Issue 3 \(May 2012\)](#)
- [Issue 2 \(March 2012\)](#)
- [Issue 1 \(January 2012\)](#)

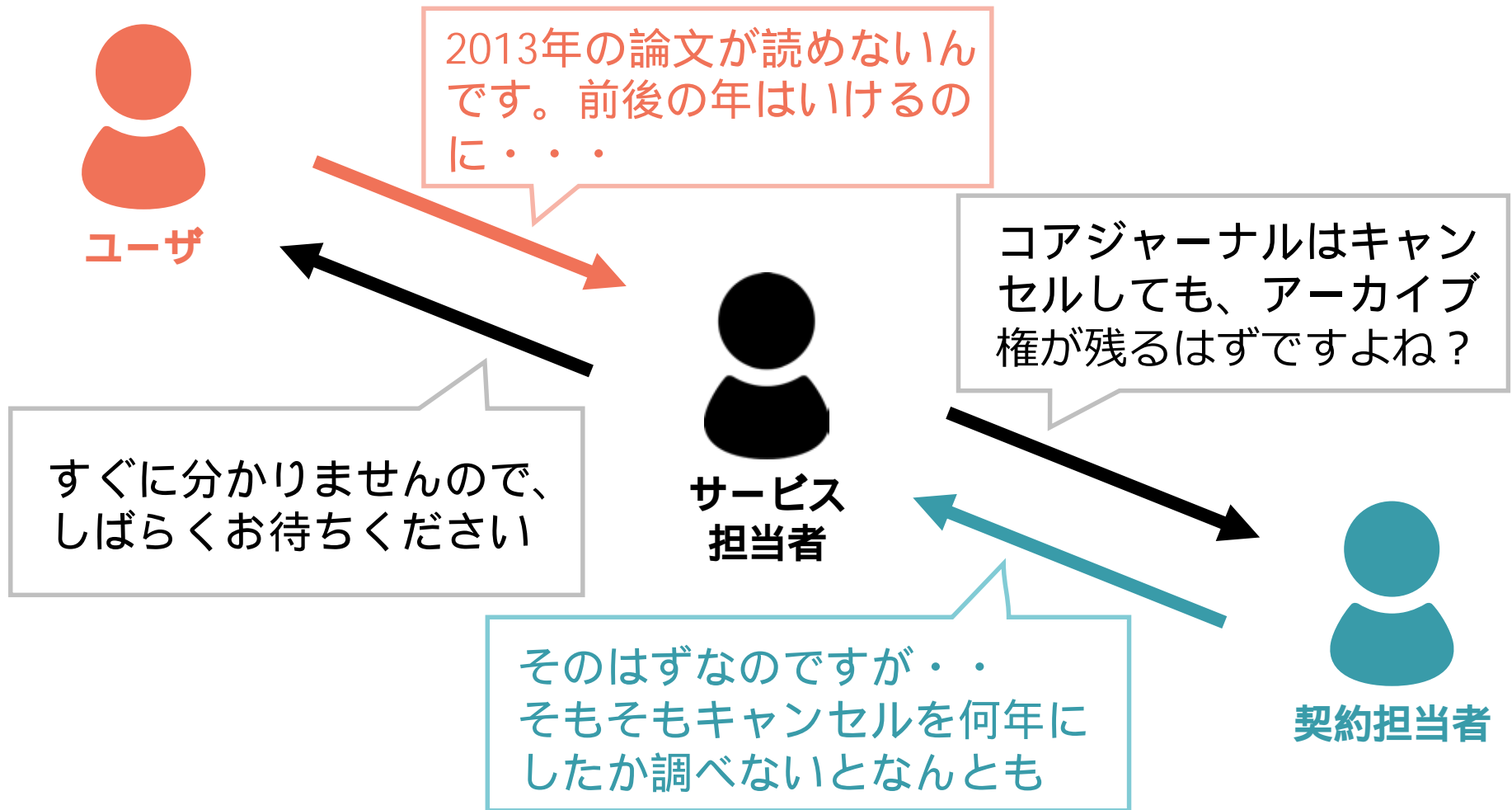
## [-] Volume 26 (2011)

- [Issue 6 \(November 2011\)](#)
- [Issue 5 \(September 2011\)](#)
- [Issue 4 \(July 2011\)](#)
- [Issue 3 \(May 2011\)](#)
- [Issue 2 \(March 2011\)](#)
- [Issue 1 \(January 2011\)](#)

## [-] Volume 25 (2010)

- [Issue 6 \(November 2010\)](#)
- [Issue 5 \(September 2010\)](#)
- [Issue 4 \(July 2010\)](#)
- [Issue 3 \(May 2010\)](#)
- [Issue 2 \(March 2010\)](#)
- [Issue 1 \(January 2010\)](#)

# ライセンスが問題？それとも他の理由？



これでは「紙」のように管理が行き届いているというイメージにはなりませんよね。サービスという点でも問題がありそうです・・・

# 実際電子リソースの提供条件は複雑です

アクセス範囲

ポスト・キャンセルション・アクセス

アーカイブ権

エンバーゴ

ローリング/ムービングウォール

提供条件

ILL

Walk in User

リモートアクセス

コースパック

トライアル利用

「紙」とは異なる複雑なアクセス範囲や提供条件の設定があります。そしてその提供条件は無数に存在する電子リソースごとに異なるという現実があります。



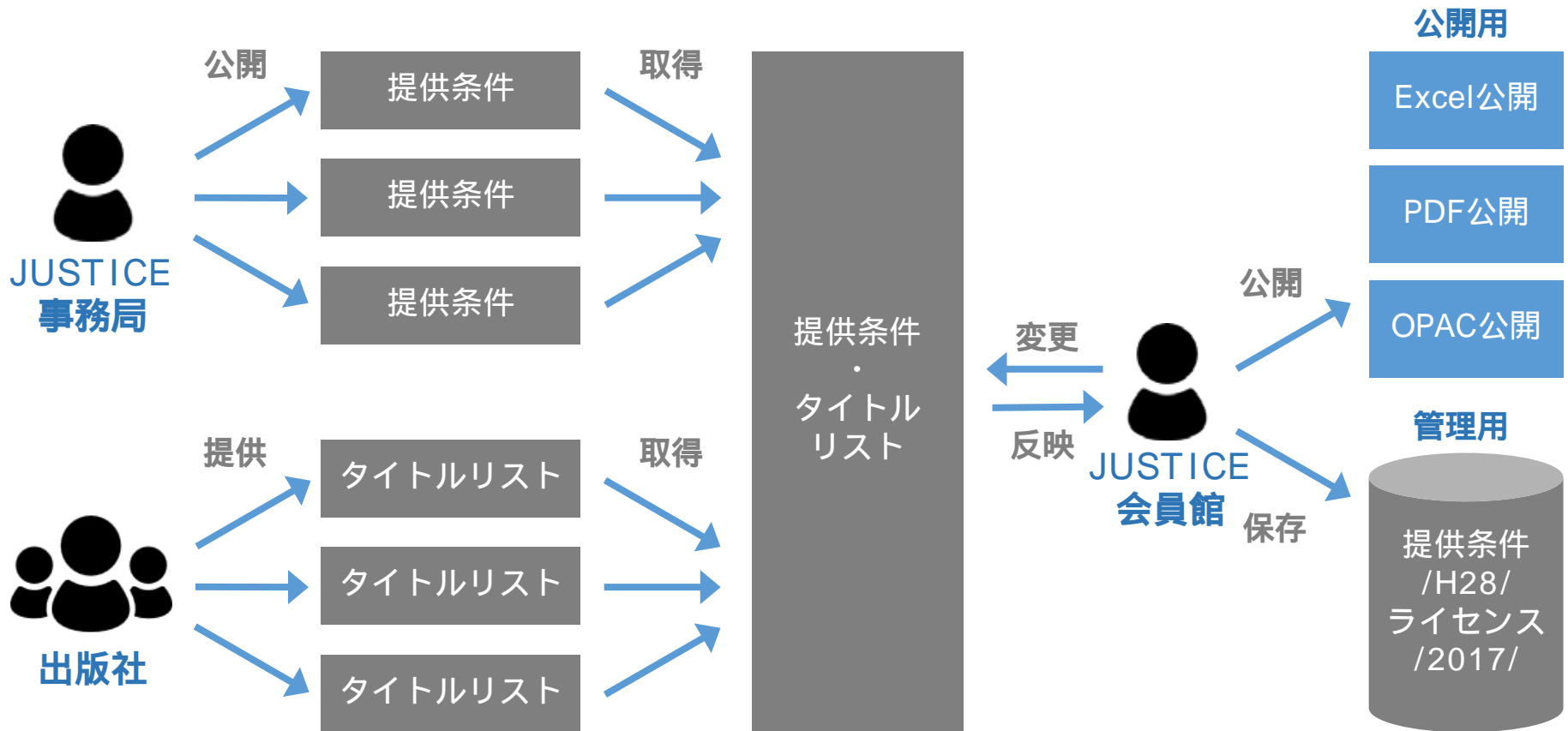
## 提供条件をしっかりと管理

- いかにかA to Zやリンクリゾルバ、ディスカバリーサービスがあろうと、ナレッジベースを適切に管理しない限り、行き届いたサービスにはならないという現実は困りものです
- しかし提供条件をしっかりと把握、管理し、利用者に適切に開示できる環境を構築できれば、電子リソースを効率的かつユーザーフレンドリーに提供できるようになります

## リスクを避けることもできます

- しかも図書館として、知らず知らずのうちに「ライセンス侵害」を引き起こすような事態も避けることができます
- アーカイブ権を有する雑誌の状況などを詳細に把握し提供することは、限られた予算を背景にした適切な資産管理を実現することに繋がります

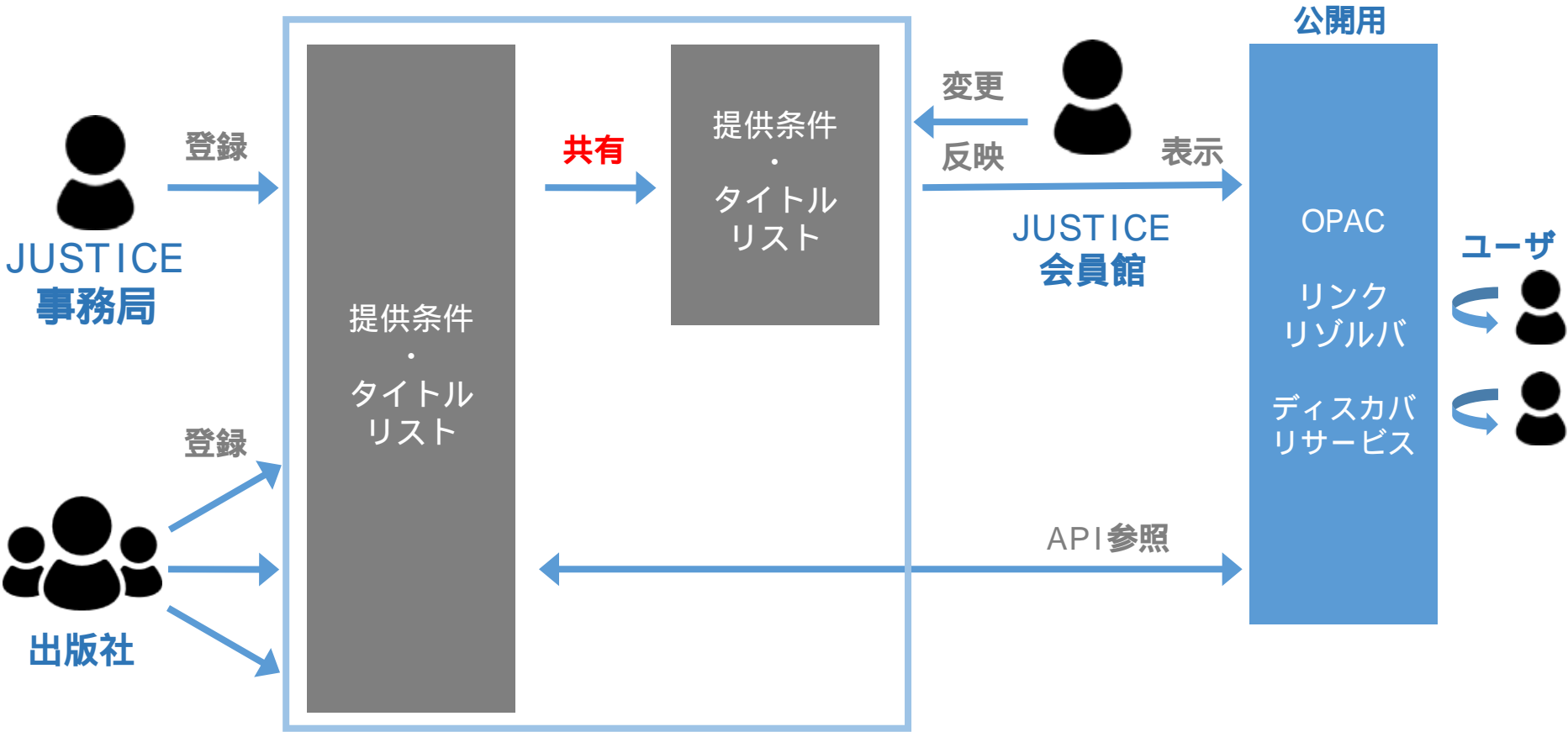
# でもこれをしっかり実行すると



提供条件やタイトルリストの取得、整理作業は、JUSTICE会員館側で行う必要があり、かなり大変な作業になります。これでは新たに管理をしっかりとやろうという図書館があっても踏み出しにくいかもしれません。

# ではこれならどうでしょう？

## 電子リソース管理システム間での共有



JUSTICE での提供条件や出版社のタイトルリストを、システムを介し各図書館でローカライズできる形で共有できれば、管理のハードルは低くなりますよね

# コンソーシアムと連携可能な 「既存」の電子リソース管理システム

## なぜ「既存」のものを考慮するのか

1. コンソーシアムにおける運用モデルがすでに構築されている製品があれば、導入作業が比較的容易になるというメリットがあります
2. 海外で使用実績のある製品があれば、国際的な学術情報流通の枠組みの中で、電子リソースの共有作業を踏まえた運用に一日の長があります

## なぜ「既存」のものを考慮するのか

3. 時流の変化に合わせて、システムは有機的にアップデートされ、外部の（国内外の）システムとつながる時代となりました。かくして、セキュリティ対策は高度化が求められるようになり、これまでのように全てを自前で賄うモデルではリスクが高まっています
4. 大学図書館やNIIで人員や予算の削減が進む状況を鑑みると「既存」のシステムを考慮することは現実的な選択だと思われます

## 1. 電子情報資源管理システム

Electronic Resources Management System (ERMS)

## 2. 図書館サービスプラットフォーム

Library Services Platform (LSP)

これらを利用することで、日本のJUSTICEコンソーシアムの運用実態に即した、効率的かつ理想的な電子リソース管理が行うことができれば、先ほど提示した大学図書館における課題解決につながります



# 電子情報資源管理システム（ERMS） コンソーシアム版の検証結果【2016年度】

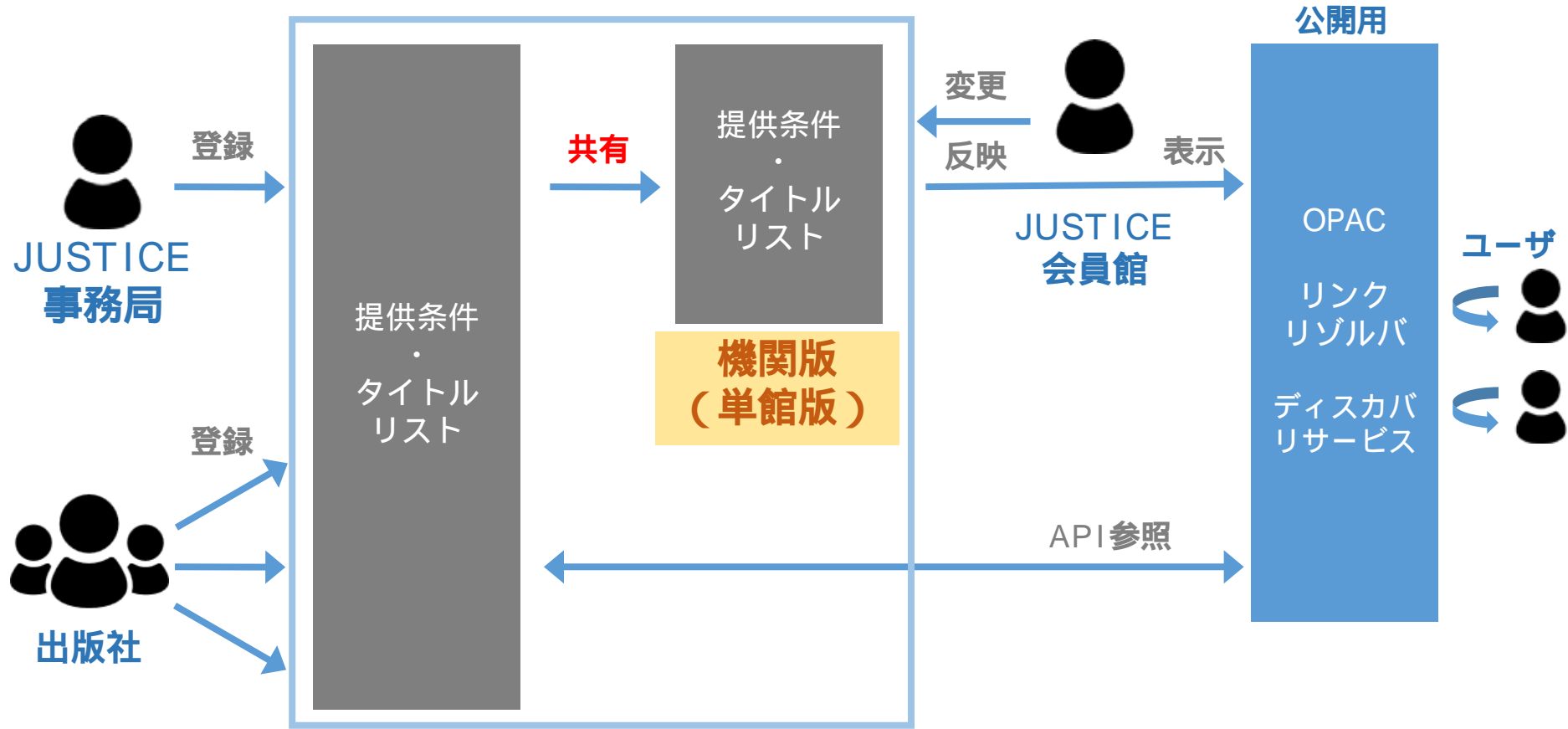
# ERMSとは

- 電子リソースのライセンスや予算、コレクションへのアクセス管理などを行うためのツール
- 電子リソースのリストとして機能する、ナレッジベースと一体化して使われます
- 2007～2008年に、機関利用（「単館」での利用）を前提とした実証実験がNIIと複数の大学図書館の間で行われ一定の評価がなされています
- 今回はコンソーシアム版の検証が必要になります

参考：国立情報学研究所. 電子情報資源管理システム（ERMS）実証実験 平成20年度報告書.  
[https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/erms\\_report\\_h20.pdf](https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/erms_report_h20.pdf), (accessed 2017-05-20)

# コンソーシアム版と機関版の違い

電子リソース管理システム間での共有



コンソーシアム版

# 検証対象

SerialsSolutions あなたのアカウント

e-Catalog: 全タイトル ▼ タイトル(前方一致) ▼

ホーム > データマネジメント > データベース詳細

データベース詳細

- 全般
  - タイトル (565)
    - 図書 (0)
    - 雑誌 (0)
    - その他 (0)
- 360 Resource Manager
  - 管理情報 (1)**
  - リソースの更新 (1)
  - 担当者 (1)
  - コスト (JPY)
    - 全般
    - ライセンス (1)
    - ノート (17)

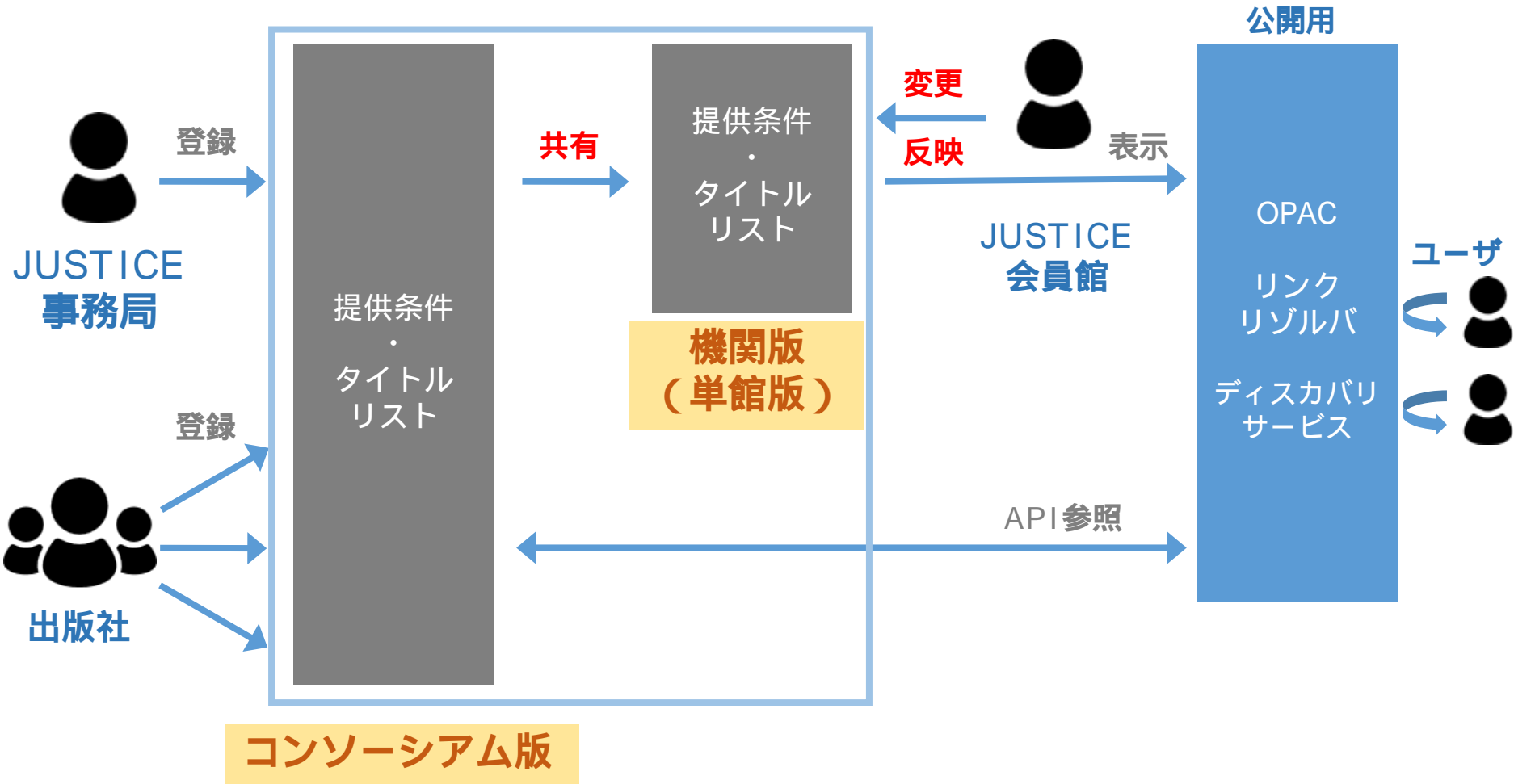
	契約日
	契約更新日
	管理者サイトURL(初期値)
	管理者サイトURL(カスタム) <a href="https://...">https://...</a>
	管理者パスワード(初期値)
	管理者ログインID 360RM
	管理者パスワード <del>XXXXXXXXXX</del>
	管理者サポートURL(初期値)
	管理者サポートURL(カスタム) <a href="https://...">https://...</a>
	ユーザーヘルプURL(初期値)
	ヘルプURL(カスタム)
	ユーザーログインパスワード(初期値)
	ユーザーログイン
	ユーザーパスワード
	リソース注記 <small>ダミーデータでテスト中</small>

# コンソーシアム版の検証項目

1. 電子リソース情報の共有が可能か  
(パッケージ、タイトル、モデルライセンス)
2. 電子リソース管理業務の効率化のための  
ワークフローが構築できるか
3. 適切な電子リソース管理による利用活性化や利用者  
サービスの向上が可能か

# 検証の結果

## 電子リソース管理システム間での共有



コンソーシアム版から共有した提供条件・タイトルリストの変更不可

- コンソーシアム版と機関版での提供条件やタイトルリストの共有は、ダウンロードという形で可能
- しかし契約を各機関で行うJUSTICEモデルでは、コンソーシアムから得られた情報を自機関でカスタマイズして使用するところに課題

# 図書館サービスプラットフォーム（LSP）の検証の概要【2017年度】



- 「紙」を中心とした実体のあるコンテンツを管理してきた従来型の図書館システム（ILS）に、電子情報資源管理システム（ERMS）やリンクリゾルバなどの周辺システムを統合したものの
- 「紙」も「電子」も形態の違いを意識することなく、同様のワークフローの中で管理、提供が可能

- Ex Libris ( ProQuest ) 社 Alma
- OCLC WorldShare Management Services ( WMS )
- Innovative Interfaces社 Sierra Library Services Platform ( Sierra LSP )



## LSPの運用における特徴

- クラウドサービスでの運用が基本
- 単館としての利用だけでなく、複数の図書館がコンソーシアムを形成し共同で導入、運用する事例も増加しています

共同運用については、参加館において効率的に各種データの共有を行うことで、業務の省力化をはかり、さまざまな経費の圧縮・削減を図ることを目的としているようです

## Library Services Platforms

PRODUCT	COMPANY	TOTAL CONTRACTS			INSTALLATIONS
		2016	2015	2014	2016
<b>Alma</b>	Ex Libris, A ProQuest Company	<b>132</b>	<b>88</b>	<b>43</b>	<b>829</b>
<b>WorldShare Management Services</b>	OCLC	<b>83</b>	<b>68</b>	<b>79</b>	<b>440</b>

引用 : Breeding, Marshall. Library Systems Report 2017. American Libraries Magazine, <https://americanlibrariesmagazine.org/wp-content/uploads/2017/04/library-sytems-charts.pdf>, (accessed 2017-05-22)

# コンソーシアムでの導入状況

## Alma

- 米国 : Orbis Cascade Alliance ( OCA ) 2012年 ~
- ノルウェー : BIBSYS Library System Consortium 2013年 ~
- 香港 : Joint University Librarians Advisory Committee (JULAC) 2016年 ~
- スウェーデン : Swedish Library Consortium (GSLG) 2016年 ~

世界25ヶ国・地域 31コンソーシアムで導入されています

# コンソーシアムでの導入状況

## WMS

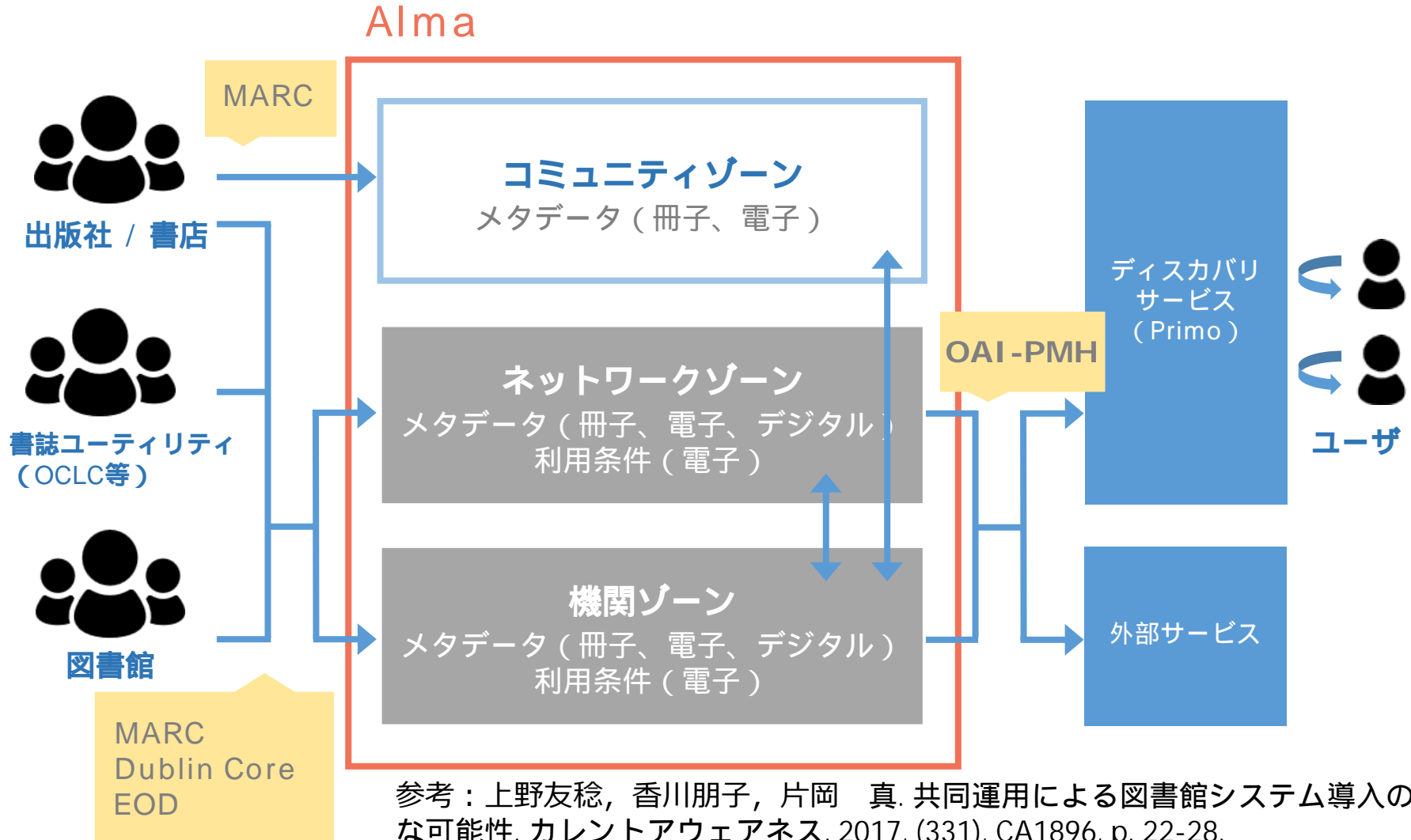
- 米国 LIBROS academic library consortium  
2014年～
- 米国 HELIN Library Consortium 2017年～

## Sierra LSP

- 米国 WISPALS Library Consortium 2014年～

両者ともコンソーシアムでの実績は少なく、  
Almaがデファクトスタンダードになりつつある状況です

# 海外におけるAlmaの共同運用の概念図



参考：上野友稔，香川朋子，片岡 真. 共同運用による図書館システム導入の新たな可能性. カレントアウェアネス. 2017, (331), CA1896, p. 22-28.

<http://current.ndl.go.jp/ca1896>, (accessed 2017-05-22)

- ERMS（360RMC）では対応が難しいという結論に至ったJUTICEモデルへの適合可能性を再検証
- 海外のコンソーシアム共同運用における採用状況を鑑み、デファクトスタンダードになりつつあるAlmaを検証対象として設定
- Almaについては、機関版（単館版）のほかに、コンソーシアム版を用意し、それぞれについて検証を実施




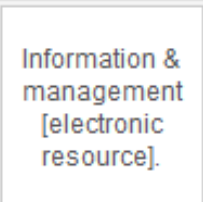
- 電子リソースの管理業務や共有作業が、従来の「紙」のコンテンツのワークフローやサービスとどのように連携されているのかを把握
- そのうえで、国内の図書館やコンソーシアムにおける包括的な利用可能性を明らかに

The screenshot displays the Alma library system interface. At the top, the user is logged in as '大阪' (Osaka) and the system is identified as 'Alma'. The search bar shows 'All titles' selected, with a search for 'information' under the 'Keywords' filter. The results are sorted by 'Rank'.

**Limit results to:**

- Inventory
- Collection
  - Electronic title
  - Digital title
  - Physical title
- Material Type
  - Book (797)
  - Computer file (5)
  - Journal (335)
  - More (3) ▾
- Language
  - .b (1)
  - Chinese (1)
  - English (1140)
  - More (6) ▾

**Search Results:**

- 1**  [Information / L. David Ritchie.](#)  
**Book {Book - Physical}** By Ritchie, L. David. (Newbury Park, CA : Sage Publications 1991.)  
ISBN: 0803939043 (cl) and others  
Series: Communication concepts ; 2  
Subject: Communication. Information theory.  
Language: English Record number: ocm24246807  
Held by: [My Institution](#)  
[Edit Record](#) | [Order](#) | [Linked Data](#)
- 2**  [Information & management \[electronic resource\].](#)  
**Journal {Other Serial - Electronic}** ([Amsterdam] : North-Holland Vol. 1, issue 1 (1977)-)  
ISSN: 0378-7206  
Subject: Management information systems--Periodicals. Management--Data processing--Periodicals services--Periodicals. and others  
Language: English Medium Type: [electronic resource]. Record number: (OCoLC)38995112  
Held by: [NII Tokyo](#)  
[Edit Record](#) | [Order](#) | [Linked Data](#)

- 電子リソースデータ共有作業部会委員と協力員が、各所属機関の協力のもとで参加しています
- 2017年4月～2017年12月の間に、ERMS以上に幅広い項目に関して検証を行う予定です
- 2週間ごとの定例会を通じて、個々の進捗を管理し、ベンダー側と機能に関する意見交換を積み重ねています

今後考えるべきこと

# 「電子リソース共有」におけるLSPの利点

45

- 「外から各機関へ向けての共有」機能だけでなく ERDB-JPと同様に、国際発信力の強化をもたらす「各機関から外へ向けての共有」を行う機能を併せ持っていることがあげられます



## コミュニティゾーン

メタデータ (冊子、電子)

## ネットワークゾーン

メタデータ (冊子、電子、デジタル)  
利用条件 (電子)

## 機関ゾーン

メタデータ (冊子、電子、デジタル)  
利用条件 (電子)

# こういった問題の解消に繋がることも期待されます

46

ASU Library  
Arizona State University

紫式部

651 results sorted by [relevance](#)  Add results beyond your library's collection

REFINE YOUR SEARCH

- Full Text Online
- Scholarly & Peer-Review
- Library Catalog

CONTENT TYPE

- Journal Article (417)
- Book / eBook (219)
- Magazine Article (14)
- Video Recording (1)

PUBLICATION DATE

from to

- Last 12 Months
- Last 3 years
- Last 5 years

DISCIPLINE

- languages & literatures (244)

1 **紫式部**  
中文自修: 中学版, 2010, Issue 7  
紫式部(约978—1014), 日本女作家, 生活于平安王朝, 其小说《源氏物语》堪称日本文学经典。紫式部本姓藤原, 真实名字无考。她出身于书香门第, 自小随兄长一起向父亲学习汉学, 表现出极大的文学天赋, 同时对音乐、美术等也颇有心得。  
Journal Article: [Full Text Online](#)  
[Preview](#)

2 **紫式部与中国唐文化**  
by 俊娴  
牡丹江大学学报, 2014, Volume 23, Issue 1  
《源氏物语》的作者紫式部是日本伟大的女诗人、女作家, 从小研读汉文典籍、学习唐文化, 在文学创作中或多或少、或简或繁的运用中国传统文化尤其是唐文化, 可以说紫式部和中国唐代文化有着千丝万缕的联系, 紫式部对唐文化的传播起着举足轻重的作用。  
Journal Article: [Full Text Online](#)  
[Preview](#)

3 **论平安才女紫式部**  
...  
[Full Text Online](#)  
[Preview](#)

## LSPによる「電子リソース共有」を具体化するために

- 最初に共有すべき電子リソースの範囲  
( ex. JUSTICE契約条件、電子書籍のメタデータetc. ) などを具体的に考える必要があります
- LSPが日本の電子リソース管理と共有に適する場合には、実際の導入にあたるコンソーシアムの組み立てや経費の調達などについて早期の企画、検討が必要になります
- そのためにデータ共有のためのワークフローも検討しています

とはいえ、これはスモールスタートに過ぎません

- LSPの機能は海外の事例からも理解できるように「電子リソースの共有」にとどまりません
- すなわち従来からの「紙」のコンテンツと「電子」の双方について購入、管理、共有、公開を行うための幅広いサービスを展開するための仕組みを有しており、図書館業務全体をサポートするシステムです
- これを踏まえた上で、LSPは海外の大規模なコンソーシアムで活用が広がっています



# コンソーシアムレベルの応用

- コンソーシアムレベルでのデータ共有機能を応用すればNACSIS-CAT/ILLの代替として活用できる可能性もあります
- 現行のNACSIS-CAT/ILLは、日本の独自開発であるため、相当な維持・管理や開発コストがかかっています。それゆえ商用のパッケージシステムとしてLSPを導入することで、運用コストを圧縮できる可能性があります。
- 「紙」や「電子」の書誌がLSPという枠内で展開されることで、国際的なデータ共有な学術情報流通の促進につながると考えられます。

参考：上野友稔，香川朋子，片岡 真. 共同運用による図書館システム導入の新たな可能性. カレントアウェアネス. 2017, (331), CA1896, p. 22-28. <http://current.ndl.go.jp/ca1896>, (accessed 2017-05-22)

# 「ネットワーク」=コンソーシアムレベル


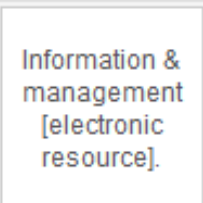
50

The screenshot displays the Alma library system interface. At the top, the user is logged in as '大阪' (Osaka) and the system is identified as 'Alma'. The search bar shows 'All titles' selected, with the search criteria 'Keywords' and 'contains information'. The search results are sorted by 'Rank'.

**Limit results to:**

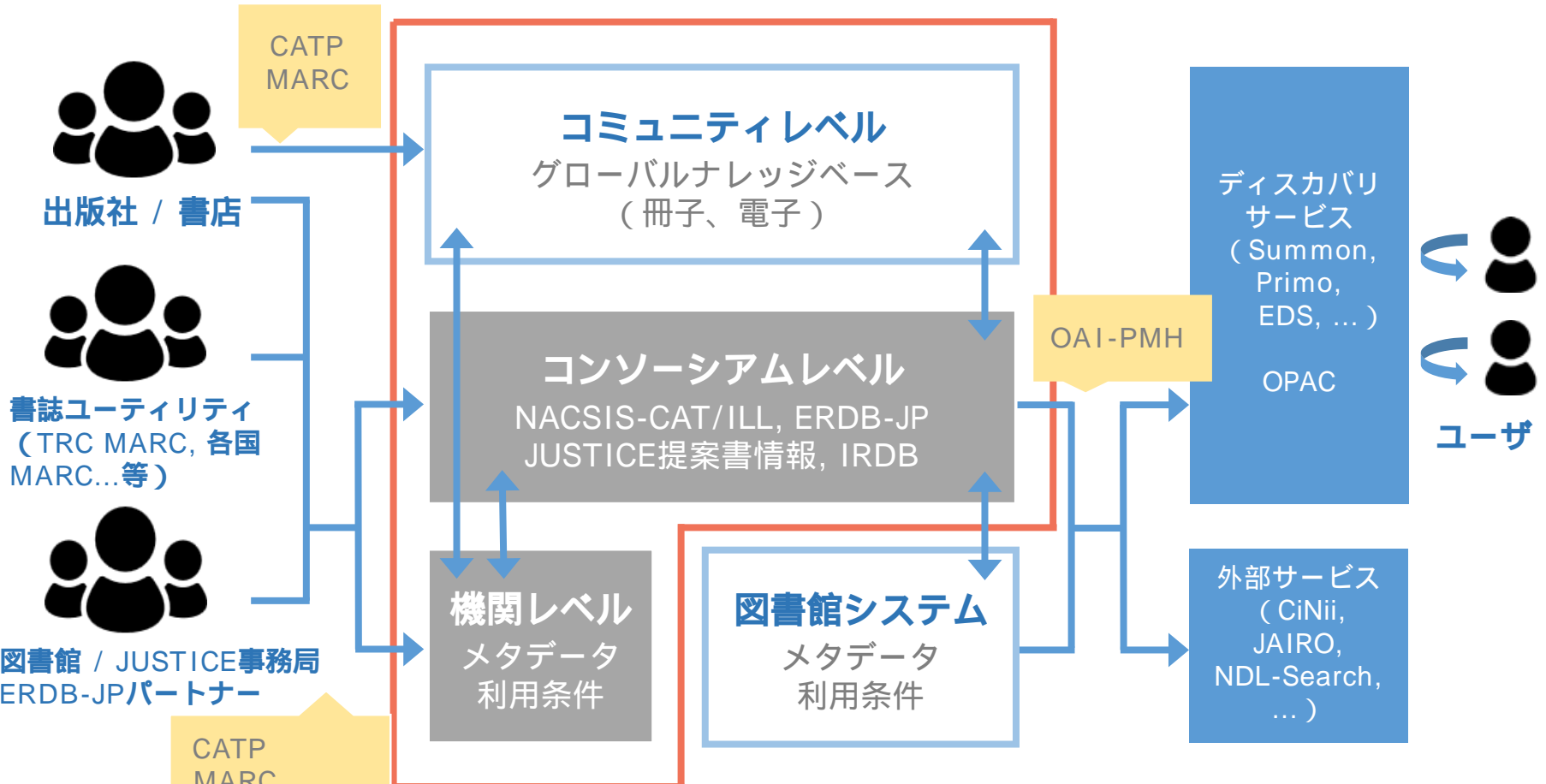
- Inventory
- Collection
- Electronic title
- Digital title
- Physical title
- Material Type
  - Book (797)
  - Computer file (5)
  - Journal (335)
  - More (3) ▾
- Language
  - .b (1)
  - Chinese (1)
  - English (1140)
  - More (6) ▾

**Search Results:**

- 1**  [Information / L. David Ritchie.](#)  
**Book {Book - Physical}** By Ritchie, L. David. (Newbury Park, CA : Sage Publications 1991.)  
ISBN: 0803939043 (cl) and others  
Series: Communication concepts ; 2  
Subject: Communication. Information theory.  
Language: English Record number: ocm24246807  
Held by: [My Institution](#)  
[Edit Record](#) | [Order](#) | [Linked Data](#)
- 2**  [Information & management \[electronic resource\].](#)  
**Journal {Other Serial - Electronic}** ([Amsterdam] : North-Holland Vol. 1, issue 1 (1977)-)  
ISSN: 0378-7206  
Subject: Management information systems--Periodicals. Management--Data processing--Periodical services--Periodicals. and others  
Language: English Medium Type: [electronic resource]. Record number: (OCoLC)38995112  
Held by: [NII Tokyo](#)  
[Edit Record](#) | [Order](#) | [Linked Data](#)

# 日本におけるLSP共同運用の理想的概念図

## 図書館サービスプラットフォーム



参考：上野友稔, 香川朋子, 片岡 真. 共同運用による図書館システム導入の新たな可能性. カレントアウェアネス. 2017, (331), CA1896, p. 22-28.  
<http://current.ndl.go.jp/ca1896>, (accessed 2017-05-22)

# いわゆる図書館システムを使っても

印刷

<AN0002242X> ○○大学情報学部紀要

書誌詳細 自館所蔵一覧(0件) 所蔵検索

検索 クリア 検索条件を閉じる  所蔵館の詳細情報を表示する

参加組織ID:	所蔵巻号: 20	所蔵年次: 2012
配置コード:	地域コード:	受入継続表示: ▼
設置者種別: 1 国立 2 公立 3 私立	機関種別: 1 大学 2 短期大学 3 高等専門学校	料金相殺グループ: ▼
ILL参加種別: ▼	サービスステータス: ▼	
複写サービス種別: A 受け付ける C 他の窓口で受け付ける N 受け付けない	貸借サービス種別: A 受け付ける C 他の窓口で受け付ける N 受け付けない	電子送信(Secure)サービス種別: A サービス可 C 条件付でサービス可 N サービス不可

たとえばNACSIS-CAT/ILLが移行されることで、冊子所蔵先の検索に加え、電子送信（Secure）が可能な電子リソースの所蔵先を検索するなど、「紙」と「電子」を統合的に扱う文献複写などの業務がより効率的に行えるようになるはずです。

- 大谷周平. Library Services Platformの現在. カレントアウェアネス. 2015, (326), CA1861, p. 9-14.  
<http://current.ndl.go.jp/ca1861>, (accessed 2017-05-20)
- 上野友稔, 香川朋子, 片岡 真. 共同運用による図書館システム導入の新たな可能性. カレントアウェアネス. 2017, (331), CA1896, p. 22-28. <http://current.ndl.go.jp/ca1896>, (accessed 2017-05-20)
- Breeding, Marshall. Library Systems Report 2017. American Libraries Magazine. 48(5). <https://americanlibrariesmagazine.org/2017/05/01/library-systems-report-2017/>, (accessed 2017-05-22)
- 飯野勝則. 海外日本研究に忍び寄る危機—学術情報サービスの視点から. リポート笠間. 2017, (61). [http://kasamashoin.jp/2016/12/61\\_2016314231.html](http://kasamashoin.jp/2016/12/61_2016314231.html), (accessed 2017-06-07)

ご清聴ありがとうございました